

平成20年度 高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査
徳王子大崎遺跡現地説明会資料



竪穴住居跡(ST - 1～3)

記者発表	平成20年10月30日(木)	11時～12時
現地説明会	平成20年11月1日(土)	13時30分～15時

(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター

辺遺跡からは弥生時代後期の土器が出土しており、周辺地域より高い場所に位置する当地に集落の存在が想定されており、予想どおり竪穴住居跡や土坑などを検出しました。今までの調査成果が実を結んだ結果となりました。

そのほか、中世の溝状遺構(SD-1・2)を検出しています。I区では、場内を囲うような形状で溝状遺構を検出したことや、遺構内に入口部と思われるような掘り残した箇所がある事などから、おそらく屋敷跡であったと考えられます。

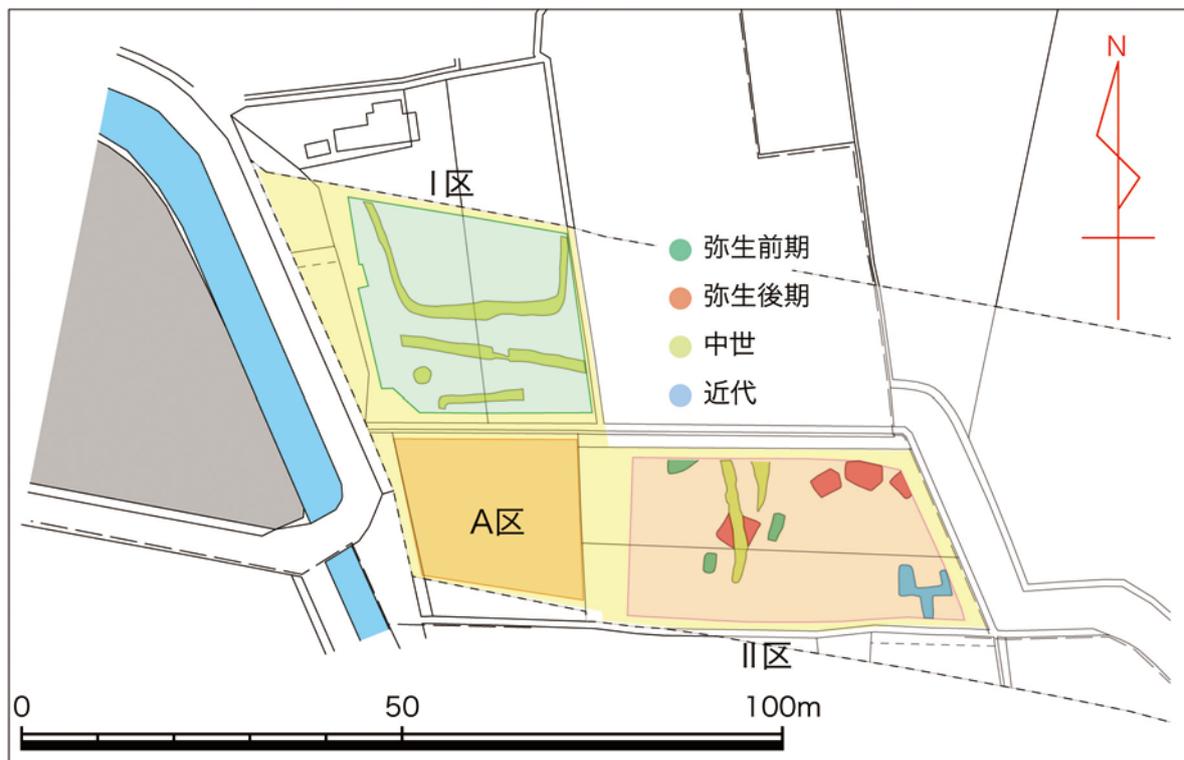
また、太平洋戦争時に作られた塹壕(壕跡1)も検出しました。現在も月見山に残る塹壕などともに戦時中の実像を示すものとして、重要であると考えます。



土坑(SK-3)



SK-3出土 弥生土器(弥生時代前期)



徳王子大崎遺跡調査位置図(S=1/1000)



土坑(SK-2)



竪穴住居跡(ST-1)



ST-1出土 弥生土器(弥生時代後期)



竪穴住居跡(ST-2)



竪穴住居跡(ST-3)



竪穴住居跡(ST-4)



溝状遺構(SD-2・3)



戦争遺跡(壕跡1)